



初秋の草地管理と乳牛飼養管理について

□秋の草地管理について

秋の草地管理は、翌年の牧草収量や植生に影響する大事な作業です。最終番草刈取後に実施しましょう。

○ギシギシ類の防除

今年はギシギシの生育が目立ちます。秋はギシギシ類の防除に最適な季節です。

- ✓ 散布時期の目安は葉の大きさが5~10 cm(手のひら大)

クローバー、アルファルファの有無	薬剤	10a 当たり使用量 ※()内は新播
ある	アージラン液剤	300~400 ml (200~300 ml)
なし	ハーモニー75DF ※採草 21 日前まで	3g (0.5~1g)
	バンベルD 液剤 ※採草後 30 日以内	75~100 ml

※使用の際はラベルをよく読んでから散布すること

○家畜糞尿、石灰資材の施用

家畜糞尿の秋散布は、牧草の有効茎数を増やす効果が期待できます。最終番草刈取後、できるだけ早い時期に散布しましょう。また、より健全な草地維持のため、石灰資材を施用し pH6.0 以上(適正 pH は 5.5~6.5)を保ちましょう。

- ✓ 家畜糞尿施用量(維持草地の目安)は、堆肥 2t/10a、スラリー 2~3t/10a
- ✓ 石灰資材散布量(目安)は、炭カル換算で毎年 30~50kg/10a

□乳牛の飼養管理

秋は暑熱ストレスの影響が現れる時期です。免疫力の低下から疾病の発症リスクが高まります。良好な飼養環境を保つとともに、乳牛を十分観察しましょう。

○サルモネラ症の予防

以下の対策について再度確認しましょう。

- ✓ ロールの細断やこまめな飼槽の掃き寄せを行い、乾物摂取量の低下を抑える
- ✓ 踏み込み消毒槽の設置
→より消毒効果を上げるため、消毒槽の他に、汚れを落とすための水槽を設置
- ✓ 農場出入り口への石灰消毒帯の設置
→自動車のタイヤ1周分を満たす長さ 4m を確保する
- ✓ 防鳥ネットによる野生動物の侵入防止

情報満載のホームページ
QRコードからGO!

